



佐々木小

第 10 号
令和 5 年 3 月 15 日
佐々木小学校
新発田市則清 856
Tel 0254 - 27 - 2011

受け継がれる佐々木小の伝統

校長 齋藤 博敏

6年生の教室に掲示してある“卒業カウントダウンカレンダー”の日数が一桁になりました。この時期になると「ゆずり葉」(河合酔茗 作)という詩を思い出します。以前6年生の国語の教科書に掲載されていました。学習した方もいらっしゃるではないでしょうか。

この詩は、世代を受け継いでいくためのあらゆる営みを「ゆずり葉」にたとえ、親が子どもたちに生きることの尊さ、美しさを与えるというもので、生命の永遠性をうたっています。そして、その価値をしっかりと捉え、生きるようにと子どもたちに呼びかけた詩です。

学校では、20日(月)の地域児童会(新登校班編制)を最後に、6年生から5年生に全てのバトンが引き継がれます。佐々木小学校の伝統に新たな1ページを書き加えてくれた17名の6年生。きっと胸を張って、慣れ親しんだ学び舎を巣立っていくことと思います。そして、新たなリーダーとしてバトンを受け継いだ5年生。しっかりとバトンを繋ぎ、大すきな佐々木小学校に、たくさん「手(て)」を加え、さらに“すてきな佐々木小学校”にしてくれることを期待しています。

今年度も制限の多い中での教育活動となりました。保護者や地域の皆様の温かい励ましの言葉が、私たち教職員の大きな支えとなりました。

本当にありがとうございました。

ゆずり葉

河合酔茗

子どもたちよ。
これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は
新しい葉が出来ると
入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずってー。

子どもたちよ。
お前たちは何を欲しがらないでも
すべてのものがお前たちに譲られるのです。
太陽の廻るかぎり
ゆずられるのは絶えません。

輝ける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです。
読みきれないほどの書物も
みんなお前たちの手に受取るのです。
幸福なる子どもたちよ
お前たちの手はまだ小さいけれどー。

世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気がつかないけれど
ひとりでのいのちは延びる。
鳥のようにうたい、花のように
笑っている間に気がついてきます。

そしたら子どもたちよ
もう一度ゆずり葉の木の下に立って
ゆずり葉を見る時が来るでしょう。

